

界に寄與するところ尠からざるを思はされたことである。(菅沼)

四六倍版 本文百四十二頁 コロタイプ圖版八十五枚挿圖二十三點 昭和六年十二月十一日 刀江書院發行 定價金八圓五十錢

牧羊城 東亞考古學叢刊第二冊

東亞考古學會はその成立以來、第一回發掘を關東州貔子窩管内東老灘に、第二回發掘を同老鐵山麓牧羊城に行ひ、第一回發掘報告は業に「貔子窩」の一書となつて世に見え、今又第二回發掘報告「牧羊城」が壯麗なる外容と整備せる内容を以て上梓せらるゝに至つた。

牧羊城に於ける發掘は、昭和三年十月、約一ヶ月に亘つて牧羊城址、附近古墓の二方面に對して行はれた。牧羊城發掘の持つ文化史的意義は、之を時代的に見る時は石器時代に屬する貔子窩遺蹟の發掘に踵いで周漢文化の一斷面を提示するものであり、之を地方的に見る時は支那本土より朝鮮半島を経て日本への文化浸漸の一徑路を明にするものである。殊に略同時代に屬する同種の遺蹟が支那に於ては河北省易縣燕國故城址に、朝鮮にあつては平安南道大同江畔の樂浪郡治址に、既に學術的發掘調査を経て居るが爲に、此の兩者を結ぶべき一楔子として從來貔子窩遺蹟を除くの外殆んど學術的發掘調査の行はれて居ない南滿洲の一角にこの發掘の行はれた事は頗る當を得た事であると同時に牧羊城遺蹟の調査そのものも亦前兩者の調査研究の結果を参照する事を得て裨補する所甚大であつた。

その發掘より、出土品の整理調査、報告の起草等に三年有餘の日子を費して今日本書の公刊を見た事は、此種の勞力の繁煩にして多大なるを知る吾人に取つては決して遲きに過ぐるものではなく、殊に多端なる公務を持つ著者の精勵に對し深く敬意を拂ふものである。

かくの如き浩瀚にして而も整備せる報告を持ち得た事は實に我が學界の誇りとすべきであるが、他面本書はその價格の上よりして決して多數に流布し得ざるものと考へられるが故に、本書を常に座右に備へ難き人々の爲に本書に據つ

て牧羊城發掘の要點を茲に、摘記紹介する事は決して耽贅の譏を受くるものではない。

本書は章を班つ事五、その中核をなすものは「牧羊城遺蹟」、「牧羊城址出土の遺物」、「牧羊城附近の古墓」の三章であり、別に「牧羊城附近古墓發見の骨」、「牧羊城對岸に存する山東省福山縣附近の故城」の二文を附録しこれらのすべてに對して外國文の摘要を附した事も周到なる注意と云ふべきである。その論文が概ね記述を出來得る限り簡明にして大半の紙數を鮮明なる圖版に費した事は、かゝる報告書の使命として當に然るべき所であらう。

牧羊城はその位置と文獻の上より前後兩漢書に見ゆる遼東郡沓氏縣城に擬定せられ、城址内より瓦磚斷片と、礎石數箇を發見してゐる。城址の發掘によつては、石器、骨角器、裝玉、銅製品、古泉(明字刀錢、大泉五十等)鐵器、土器、紡錘車、瓦磚等を出した。これら出土品の示す所に従へば、本遺蹟は附近一帯の丘陵と共に石器時代より周末にかけての住民の聚落地であつた所へ兩漢を通じて縣城を營んだものであらう。牧羊城址の發掘はこの種の構築遺蹟の一例を加へた事に重大な意義を見出すものであるが、それよりも吾人の最も興味を感じるものは、その附近古墓の發掘によつて諸種の漢代墓制に關して明確なる知識を持ち得るに至つた事である。發掘を行つた墓は貝墓、石墓、甕棺、塋周墓の四種であるが、就中從來文獻上の知識のみより持ち得なかつた塋周墓の明確なる遺蹟を發見した事は大なる收獲として特記すべきであらう。しかもその塋周墓より一の青銅製劍柄を發見しこれによつて西清續鑑以來誤り傳へられたるこの種器具の使用法を正確に規定し得た事も本書の一成績と認められるべきである。又結論の中に銅製兵器の分布に關して述べられてゐる原田助教の意見には傾聴すべき點が多い。終りに臨んで吾人はこの辛勞多き發掘に従事せられたる諸氏と至難なるこの種報告書の公刊に盡瘁せられたる諸氏とに篤き感謝を表明するものである。(正木)

四六四倍判 本文七十頁 附錄合計三十一頁 外國文摘要五二頁、圖版(コロタイプ及石版)七十一葉、挿圖(コロタイプ及石版)四十五圖、原田淑人(責任者)著、昭和六年十二月、東亞考古學會發行、刀江書院發賣、定價二十二圓。